

令和7年度 多治見市民病院指定管理者評価委員会議事録

【日 時】 令和7年7月25日（金） 14：00～15：20

【場 所】 多治見市役所 駅北庁舎 4階第2会議室

【出席者】 山田 敬一 委員長（東濃保健所長）
尾関 恵一 委員（多治見市監査委員）
鈴木 直樹 委員（市民代表）
鈴木 亜紀子 委員（市民代表）

（市民病院）

院長 今井裕一、参与 古川雅典、事務長 池田達也
看護部長 長谷川多嘉根、医事課長 土本裕子

（事務局）

こども健康部長 加藤洋子、企画部長 桜井 康久
保健センター所長 谷口知子（進行）、
保健センター 後藤紀男、片山直也
企画政策課 大畑幸二

【次 第】

- 事務局紹介
- こども健康部長、企画部長あいさつ
- 委員長により開会
- 傍聴人有無の確認
傍聴人無し
- 会議の成立確認
全員出席により成立
- 事務局から評価シートの見方、評価の定義等の説明

【議事概要】

（事務局）

～資料1について説明～

1 診療について

（委員）常勤医師が44人、非常勤医師が52人となっており、事業計画の非常勤医師数よりも3人不足しているが、昨今の情勢から常勤医師を確保するのは非常に難しくなっている。今期は整形外科等の常勤医師が8人増員できたことはとてもよいこ

とである。

(委員) 医師を増やすことも大切だが、気持ちよく勤めていただくことも大切と考えている。年齢層によって職場に求めるものが変わってくると思うが、差し支えなければ新たに来られた医師の年齢層を教えてください。

(市民病院) 若手の医師が増えた。研修医は、令和6年度末で8人、現在は9人である。

(委員) 昨年の広報紙でも研修医の特集が組まれているのを拝見した。若い医師の育成に力を入れていることが分かった。

(委員) 市民病院の患者のうち多治見市民以外の割合はわかるか。

(市民病院) 以前は患者の8~9割程度が多治見市民だったが、最近では7割程度になった。3割は瑞浪市、土岐市、中津川市そして可児市からも利用がある。

(委員) 外国人の技能実習生について、これから受入れが増えてくると思うが、実習生のための支援は行っているのか。

(市民病院) 旧旭ヶ丘教職員住宅があり、現在、ミャンマーから来ている実習生の生活の場となっている。

(委員) 技能実習生はどこも欲しがると思うが、環境が整っていないとよそへ行ってしまいうのではないか。その点を充実させたほうがよいのでは。

(市民病院) 旧旭ヶ丘教職員住宅では1人1部屋で提供しており、充実していると言える。

(委員) 先ほどの研修医の話だが、研修医に来てもらうには病院の体制がしっかりと整っている必要がある。研修医が来るということは魅力ある病院と若手から見られていることだと思う。令和5年度は事業計画の常勤医師39人を達成できなかったが、令和6年度の実績は達成することができ、とてもよかった。

(委員長) 岐阜県の立ち入り検査でも、医療安全面や感染対策をしていただいております、安全な医療提供ができています。以前、市民病院の研修医が患者にとっても親切な対応をしていると話を聞いたことがあります。患者中心の医療を提供していると感じています。診療については、すべて○でよいと思います。

(事務局)

【評価の確認】 基本的医療機能○、外来診療○、入院診療○、安全管理・医療倫理○

2 政策的医療について

(委員) 政策的医療は不採算部門であるため、これに取り組むということは経営が成り立たない。そこで多治見市は政策的医療負担金を出しており、公的な医療機関を維持している。計画に実績が多少満たないこともあると思う。小児医療の評価項目が△になっているのはなぜか。

(事務局) 小児の入院患者数は年々減少しており、外来患者も前年度を下回る結果となったためである。

- (委員) 小児医療のやり方がよくない、医師が少ないというのであれば問題だが、患者数が減っているということだけで、△とするのはいかなものか。
- (市民病院) コロナの流行が落ち着いてから、全国的に小児科の入院患者が激減している。県立多治見病院でも入院が少ない状況で全国的な流れではないか。
- (委員長) 昔の日本は小児の予防接種がとても遅れていた。しかし、予防接種の接種率が10倍近く増えたことにより小児の重症化が全国的に減ってきている。市民病院の入院患者が減っているのは、これが関係しているかもしれない。
- (委員) 市民病院の経営方法の問題ではなく、予防接種などの背景が関係しているのはわかった。常勤医師が1名であることなど今後も改善できる余地があると認識した。
- (委員) 小児患者が減少している件について、委員会は配付された資料をベースに説明して進行する。今回の資料では医師が少ないため患者数が減少していると捉えることができるが、委員の指摘や委員長の補足により全国的に患者となりうる母数が減少していることが分かった。目立つ数字や評価の場合、全体的な要因など資料に説明があると委員会がスムーズに進行すると思う。
- (委員長) 新年度の資料作成時に活かしていただきたい。
- (委員) 結核検診があると思うが、現在、結核患者は少なくなっていると思う。結核検診をやめると費用が抑えられると思うが、市民病院としては患者が増える可能性があるので継続したほうがよいのか教えていただきたい。
- (委員長) 結核は保健所が管轄している。昔と比べて患者数は減っているが、60歳以上の方は結核に感染していた時代の菌が残っている可能性があるため、国として検診を進めている。また外国から菌が持ち込まれることもあるため検診をやめるのは難しい。
- (委員) 救急科の外来患者数について令和5年度は9,791件だが、令和6年度は6,429件と大きく減少しているのはなぜか。
- (委員長) 資料2の事業報告書に説明がある。新型コロナが5類になったことを受けて、令和6年6月より発熱患者の対応方法を変更し、救急患者数は減少した。これまですべての発熱患者が救急外来を経由していたが、直接各診療科を受診する体制となった。患者数をカウントする方法が変わったため減少したという認識である。
- (市民病院) 現在、市民病院のような中小規模から大きな病院まで、ほとんどが赤字になっている。原因として患者から一定額以上の金額を請求することができないため。これは厚生科学審議会により定められている。次に物価上昇により費用が膨らむところ、医療費へ価格転嫁ができないためである。市民病院は市からのサポートもあり、黒字で何とかやってこれている。
- (委員) 今後もこのように継続してやっていただきたい。

(委員長) 小児医療については、全体的要因が資料に記載されていないため、数値のみで判断し、△とする。

(事務局)

【評価の確認】救急医療○、小児医療△、リハビリテーション医療○、保健衛生事業○、災害時医療○

3 地域医療連携・施設等の維持管理

(委員) 市内の診療所の医者から話を聞くことがあるが、市民病院の評判はとてもよい。県病院を頂点とし、市民病院があり、町の診療所がある医療体制がしっかりと作られている。

(委員) 資料2の医療機器の整備について、機器を導入したことによる効果を教えていただきたい。

(市民病院) 令和6年度はMRIを新しく切り替えた。それにより撮影時間が短縮された。また様々な使用方法があり、腫瘍や炎症箇所をPET-CT検査よりもかなり抑えられた費用で検査することができる。

(委員長) 医療機器など、設備面でも県立多治見病院と市民病院の役割分担ができています。

(委員) 市民参加の促進について、市民病院のような大きな組織が地域にあるということ自体に意味がある。メディカルスタッフ体験ツアーを2回開催するなど、地域の開かれた病院として市民へアプローチしており、とてもありがたい。こうしたイベントは小さなお子さん向けに行うことが多いが、進路を考えるのはもう少し大きな子どもたちである。その子たちに向けて専門性が高く、倫理観の高い仕事をしている人を見てもらう機会があるとよいと思う。

(委員長) 市の施策協力については、今後の受入体制について検討いただきたいことから△とする。

(事務局)

【評価の確認】地域医療機関との連携等○、市民参加の促進○、市の施策協力△、介護保険事業等高齢福祉の協力○、施設等の維持管理○

4 その他について

(委員) 以前までは新型コロナウイルス感染症に関連する国等からの補助金があり、大きな黒字となっていた。6年度はコロナが落ち着いたことから、通常の状態に戻ったといえる。政策的医療負担金の1億7千万円を除いても約1億円の黒字が出ているのはとてもよい結果である。

(委員長) 市民病院の収支が良好で、新しい医師に来ていただけていること、資料やこれまでの話からよりよい運営のため努力していただいている。

そのほか質問、意見はないか。

(委員) 特になし

(委員長) これをもって閉会とする。(15:20 終了)